

ABSTRAK

Model *Listen Read Discuss* (LRD) Pada Pembelajaran *Dokkai*

(Eliza Fauzia Shirath, 2016, 69 halaman)

Penelitian ini bertujuan untuk mendeskripsikan keefektifan penggunaan model *Listen Read Discuss* (LRD) dalam pembelajaran *dokkai* pada mahasiswa tingkat I Departemen pendidikan bahasa Jepang. Jenis penelitian ini yaitu penelitian kuantitatif eksperimen murni dengan desain penelitian *Pretest posttest control group design*. Dalam penelitian ini, penulis menggunakan dua kelas yaitu kelas eksperimen yang menggunakan model *Listen Read Discuss* (LRD) dan kelas kontrol yang menggunakan model *Think-Pair-Share* (TPS). Populasi dalam penelitian ini adalah keseluruhan mahasiswa tingkat I Departemen Pendidikan Bahasa Jepang FPBS UPI. Teknik pengambilan *sample* dilakukan dengan *Random Sampling* yang diperoleh kelas C sebagai kelas eksperimen dan kelas B sebagai kelas kontrol. Data diperoleh dari *pretest*, *post-test*, dan angket. Hasil analisis menunjukkan nilai *t hitung* lebih besar dibandingkan nilai *t tabel* ($t_{hitung} \geq t_{tabel}$) yaitu $5,30 \geq 2,71$ pada taraf signifikansi 5% dan 1%. Dengan ini dapat disimpulkan bahwa model pembelajaran *Listen Read Discuss* (LRD) efektif digunakan dalam pembelajaran *dokkai*.

Keyword : *Listen Read Discuss* (LRD), *Dokkai*, Membaca.

ABSTRACT

MODEL LISTEN READ DISCUSS (LRD) IN DOKKAI LEARNING

(Eliza Fauzia Shirath, 2016, 69 pages)

The aims of the research are to describe the effectiveness of using Listen Read Discuss (LRD) model in *dokkai* learning on the first grade students of Department Japan educations FPBS UPI. This research is the kind of pure experimenting research with using *Pretest posttest control group design*. In this research using two class, experiment class with using Listen Read Discuss (LRD) and control class with using *Think-Pair-Share* (TPS). The population of this reseach is the whole first grade students of Department Japan educations FPBS UPI. The technique of the sample is done with using *Random Sampling* which are obtained class C as experimenting class and class B as controlled class. The data are obtained by pretest and posttest with essay and true-fault test forms with the result value, *t hitung* more high then *t tabel* ($t_{hitung} \geq t_{tabel}$) namely $5,30 \geq 2,71$ on the 5% and 1% signifikansi level. In reality, it can be concluded that Listen Read Discuss (LRD) model can be used in *dokkai* learning effectively.

Keyword : Listen Read Discuss (LRD), Reading Comprehensive, Reading

読解指導における *Listen Read Discuss (LRD)* モデル

エリザ・ファウジア

1 1 0 4 7 3 0

要旨

本研究の目的は 読解学習における日本語教育学科の1年生に対する *Listen Read Discuss (LRD)* 学習モデルの使用の効率を知るためである。本研究では、*One group pretest- posttest design* を使用し、準実験の研究である。本研究とは、2つクラスである。*Listen Read Discuss (LRD)* 学習モデルで実験クラスと *Think-Pair-Share (TPS)* 学習モデルでコントロールクラス。人口となったものはインドネシア教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の1年生全員である。サンプルは、*Random Sampling* を使用し、Cクラスが実験クラスとなり、コントロールクラスにするクラスはBクラスとなった。データはエッセイテストとまるばつテストを使用した実験前テストと 実験後テストからできたものである。結果は水準5%で、*t* 得点 5,30 であり、*t* 表 2,71 である。つまり、*t* 得点のほうが *t* 表 くらべるともっと高い (*t* 得点 \geq *t* 表) ということが分かった。そのため、読解授業における *Listen Read Discuss (LRD)* 学習モデルの使用は効率的だと言えよう。

キーワード : *Listen Read Discuss (LRD)*, 読解, 読む

A. はじめに

読解とは、内容を通じて伝えたいメッセージを理解し、情報を得るプロセスの1つのことである。読解には、内容を通じて伝えたいメッセージを理解するのに、読者には読解技能を身につく必要がある。読解の授業で、読む内容を理解するのに、プロセスが必要となる。このプロセスとは、内容に書いてある情報を得、理解するプロセスである。そのため、読解の情報を理解することで誤解が発生しないように、読解の技能は必要だと思われる。

これに基づいて、教師が革新する必要がある。その1つは *Listen Read Discuss (LRD)* の学習モデルである。このモデルでは、教師が学生に本文の内容を完全に理解し、アイデアを交換するためにも機会を提供することができる。

B. 本研究の目的

1. インドネシア教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の1年生の学生 *Listen Read Discuss (LRD)*モデルと *Think-Pair-Share (TPS)*モデル前に対する読解技能を知るためである。
2. インドネシア教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の1年生の学生 *Listen Read Discuss (LRD)*モデルと *Think-Pair-Share (TPS)*モデル後に対する読解技能を知るためである。
3. インドネシア教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の1年生の学生の *Listen Read Discuss (LRD)*学習モデル前と後の効果を知るためである。
4. インドネシア教育大学言語文学教育学部日本語教育学科の1年生の学生の *Listen Read Discuss (LRD)*学習モデル反応を知るためである。

C. 研究の方法

本研究の方法は準実験の方法である。本研究のデザインは *Pre-test post-test control group design* である。本研究のサンプルでは、一年生 *FPBS UPI* C クラスおよび B クラスである。この研究デザインは、下語の通りである。

$$O_1 \quad X \quad O_2$$

報道：

$O_1 = \text{pretest}$ 実験前クラスである

X= 処置

$O_2 = \text{posttest}$ 実験後クラスである

(Sugiyono, 2011, hlm.112)

D. データの収集法の技術

1. テストの分析の公式下のものである。

a. t 得点を調べるために、表を書く

No	X	Y	x	y	x^2	y^2
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
1.						
2.						
3.						
4.						
5.						
Σ (8)						
M (9)						

b. 実験クラス及びコントロールクラスの平均点を計算する

$$M_x = \frac{\sum x_1}{N_1} \quad M_y = \frac{\sum y_1}{N_2}$$

c. 標準偏差を計算する公式は以下のようである

$$SD_x = \sqrt{\frac{\sum x^2}{N_1}} \quad SD_y = \sqrt{\frac{\sum y^2}{N_2}}$$

d. 標準誤差を計算する公式は以下のようである

$$SEM_{x2} = \frac{SD_{x2}}{\sqrt{N_1-1}} \quad SEM_{y2} = \frac{SD_{y2}}{\sqrt{N_2-1}}$$

e. 標準誤差の連合を計算する公式は以下のようである

$$SEM_{x-y} = \sqrt{SEM_x^2 + SEM_y^2}$$

f. t 得点を計算する公式は以下のようである

$$t_0 = \frac{M_x - M_y}{SEM_x - SEM_y}$$

g. 自由度(db)を計算する公式は以下のようである

$$db = (N_1 + N_2) - 1$$

2. アンケートのデータ分析

a. アンケートの分析は次の公式を使用する

$$P = \frac{f}{n} \times 100\%$$

P : 答え者に答え回数の割合

f : 答えの答え数

n : 答え者数

(Sudijono, 2001: hlm. 40-41)

b. アンケートのデータは解釈に用いられる手引きは次の表に示して
る:

アンケートのデータは解釈

インターバル	解釈
0%	いない
1%- 5%	ほとんどない
6%-25%	少ない
26%- 49%	ほとんど半分
50%	半部
51%- 75%	半部に上
76%- 95%	大体
96%- 99%	ほとんど大体
100%	全部

Eliza Fauzia Shirath, 2016

MODEL LISTEN READ DISCUSS (LRD) PADA PEMBELAJARAN DOKKAI

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

(Sudijono, 2001, hlm. 40-41)

3. データの分析

研究の分析に基づいて、データの分析は次のようである。

	実験の前	実験の後
平均店実験クラス	64,5	88,75
平均店コントロール クラス	68	79,25
標準偏差実験クラス	14,7394	7,8859
標準偏差コントロー ル クラス	15,4434	15,5141
t 得点	-0,7	5.30

研究のデータでは、結果の *Listen Read Discuss (LRD)* 学習モデルを適用すると結果の *Think Pair Share (TPS)* 学習モデルを適用する前に、実験クラスは 64.5 の予備試験結果の平均を持ってコントロールクラスは 68 の予備試験結果の平均を有した。*Listen Read Discuss (LRD)* 学習モデルを適用した後に有意な差は 88.75 のインディゴ平均試験後の買収により証明された存在である。コントロールクラスでは *Think Pair Share (TPS)* 学習モデルも平均値が増加した 79.25 になる。次に、統計計算を用いたテスト後の分析に基づいて、5%の有意水準で 2.02 の数 db 39 t 表と比較した t 得点 5.30 の得られた値は、1%の有意水準は 2.71、それがあると結論することができます T-カウント値が 5%と 1%の有意水準での t 表より大きい実験的なクラスとコントロールクラスの間には有意差があるため、このように、作業仮説が許容された。

回答者によって充填されたアンケートの結果に基づき、*Listen Read Discuss (LRD)* 学習モデルの適用が肯定応答を取得していると結論が出た。*Listen Read Discuss (LRD)* 学習モデルは、学生がテキストを簡単に、より

楽しく学習読解を読んで理解するために、学生は学習意欲向上に役立つことができるためである。これは、適用 *Listen Read Discuss* (LRD) 学習モデル が良好な結果を示し、効果的に特定のテキストが読解の研究で使用したことを証明しています。

E. こうさつ

4 サイクルで集中的な研究は、*Listen Read Discuss (LRD)* 学習モデルを効果的に基づい読解特にテキストに読解の研究で使用されていることが分かる後は：

1. それは学生がより簡単に、より楽しく学習読解を読んでテキストを理解するために、学ぶためのモチベーションを向上させるため、回答者が記入アンケートの結果が陽性反応をしめた。
2. 教室での研究プロセス中に観察は、モデル *Listen Read Discuss (LRD)* が、これはまた他の学生と交流し、議論の学習プロセスの間に行われるため、学生は個性行うことができますクラスのアクティブな学生を作ることができ、クラスが肯定的なものに資するなり、すべての学生が意見を利益を得ることができる。

F. 終わりに

研究結果により、下語の通りまとめた。

1. 聞くこと書くことと話す、語学力などの他の側面のための学習モデル *Listen Read Discuss* (LRD) を再開発するためである。
2. モデル *Listen Read Discuss* (LRD) は、特に教育の読解で、教育と学習活動に代替することができます。このモデルは、協力者における使用に有効であることが証明されたためである。

G. 参考文献

- Sudijono. Anas 2001. *Pengantar Statistik Pendidikan*. Jakarta: PT Raja Grafindo.
- Sugiyono. (2011). *Metode Penelitian Kualitatif Kuantitatif dan R&D*. Bandung: Alfabeta.
- Sutedi, Dedi. 2011. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.